

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

確かな学力と人間力を育み、愛校心 (LOVE & PRIDE) にあふれ、地域に愛される学校をめざす。

1. 志・夢・確かな学力を獲得させ、社会で自信を持って活躍する人材を育てる。
2. 学校行事、部活動を充実させ、人間力を培い、愛校心を育てる。
3. 人権教育の推進と規範意識の向上により、豊かな人格を育む。

## 2 中期的目標

## 1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成

(1) 生徒一人ひとりが自信を持てる基礎学力の定着と活用型学力の獲得をめざす。

- ア 進路実現に対応可能な基礎学力を向上させるため、実態を正確にリサーチしながら、わかりやすく自信がつく授業を行う。  
※学校教育自己診断の「授業のわかりやすさ」の項目において、平成 31 年度までに 80% の肯定率をめざす。(平成 28 年度 : 71.6%)
- イ 主体的・対話的で深い学びのある授業を積極的に取り入れ、コミュニケーション能力の育成と活用型学力を育成する。また、ICT 機器の授業における効果的活用を促進する。  
※各講座での「主体的・対話的で深い学びのある授業」の導入を促進し、平成 31 年度まで実施授業の比率を上昇させ続ける。
- ウ 英語専門コースでは、より高いレベルでの 4 技能習得のため、組織的に指導方法の研究と実践を行なう。  
※英語コースにおける「授業満足度」の継続的上昇 (平成 31 年度に 3.5)
- エ 放課後学習や週末課題の活用により、家庭での学習習慣を定着させる。  
※2 年生での家庭学習の平均時間を、平成 31 年度までに 1 時間以上とする。
- オ 英語検定等、各種検定試験を利用し資格取得によって生徒の自己肯定感を高める。  
※平成 29 年度には第 1 学年の約 60% が受検、うち約 60% の合格をめざす。(目標は 1 年 : 3 級、2 年 : 準 2 級、3 年 : 2 級)
- カ 国際交流活動で英語やコミュニケーション能力、国際感覚等を高める。(外国からのスタディツアーを受け入れ、希望者による短期派遣を実施する。)

(2) 大学入試改革に対応した「確かな学力」の育成と評価を研究し、新制度入試での生徒の希望進路実現に備える。

- ア 新制度で大学入試が行われる平成 32 年以降においても進路保障が確実にいけるよう、高大接続改革の状況をリサーチしながら、新制度に対応する「確かな学力」の育成方針・方法と評価方法について研究と実践を行う。  
※ 「大学入試改革に関わる授業変革プロジェクトチーム (平成 28 年立ち上げ) による研究と研修 (年 2 回以上の研修)  
※ 「確かな学力」を評価するための観点別評価の導入 (平成 30 年度から本格実施)

## 2 生徒の自信を育む「生徒指導」の展開

(1) 高校生活の基本となる生徒の規範意識を醸成する。

- ア 遅刻指導、服装指導、授業規律を徹底することにより、規範意識を育成し自尊感情と自信を高める。  
※ 遅刻数は、平成 27 年度に約 900 件となり平成 29 年度には 800 件を早期達成したため、これを維持・さらに減少に努める。  
※ 学校教育自己診断 (生徒) での「学校のルールを守ろうとしている」の肯定率 95% 以上を維持する。

(2) 教育相談・支援教育・規律指導が三位一体となった生徒指導を行なうことで安全で安心な学習環境を維持し、生徒の健全な成長を支援する。

- ア 何らかの悩みや不安のある生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談体制の充実を図り関係機関とも連携する。  
※ 学校教育自己診断 (生徒) の教育相談に関する項目の肯定率を平成 31 年度までに 60% 以上にする。  
※ 教育相談担当者等によるケース検討を年間 20 回以上行なう。(毎年)  
※ 生徒の障がいや特性の理解を深め、適切な「合理的配慮」と指導・評価が行なえるよう、事例検討を含めた研修を行なう。(毎年)

(3) 来校者や地域の方へのあいさつの励行による、社会性と自信の育成。

- ア 「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行なう。  
※ 学校教育自己診断 (生徒) の挨拶に関する項目の肯定率を平成 31 年度までに 80% 以上にする。

## 3 「生きる力」を育成する学校行事・部活動の充実と地域連携

(1) 伝統ある学校行事・部活動により主体性や協調性を育成し愛校心も育む。

- ア 学年進行により生徒が主体となるよう学校行事の企画・運営を工夫し、生徒に自信をつけさせ、自己有用感や自己肯定感を高める。  
※ 学校行事の満足度は、26 年度 83%、27 年度 88%、28 年度は 88.9% と上昇しており、平成 31 年度には 90% をめざす。
- イ 部活動運営の主体的活動を通じて、社会性やリーダーシップ、組織運営力を身につけ、逞しい人間力を育成する。  
※部活動入部率は、26 年度の 1 年生当初が約 77%、27 年度 65%、28 年度 68% であり、安定して 70% 以上となるようにする。
- ウ 中学生の体験部活動や合同練習等の交流を推進する。

(2) 地域行事等への積極的な参加や広報活動により、地域の信頼を高め自尊感情や自己有用感を育む。

- ア 地域コミュニティの行事や近隣の企業等のイベント等に参加し、「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。
- イ 広報チームを核に生徒、教職員が一体となって「面倒見のよい津田校」を広報し、地域からの信頼度を高める。
- ウ 独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」となる。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成	(1) 基礎学力の定着と活用型学力 ア 基礎学力の向上と進路指導	(1) ア・「わかる授業」のための授業改善 ・教育産業の実力テスト継続活用による基礎学力充実と進路実現のための分析と指導、保護者への情報提供	(1) ア・自己診断「授業はわかりやすい」75%以上〔H28:71.6%〕  ・実力テスト結果における下位区分者を入学時と比較して30%減少〔H28:18%減〕  ・1年保護者対象の成績分析説明会開催(年1回) ・進路実現に関する満足度85%(H28:83.2%)	
	イ 主体的・対話的学びの実践 ウ 英語専門コースの再編 エ 家庭学習の定着 オ 各種検定試験への取組み カ 国際交流活動の推進	イ・主体的・対話的な学びのある授業の実施とICT機器の活用研究 ウ・英語専門コース改革のための組織を立ち上げる。 ・より生徒の興味関心を引き出す授業作りをめざす。 エ・放課後学習と週末課題の組織的取組み オ・英語検定等の対策指導を行い意識を高める カ・海外からの教育旅行を受け入れ異文化交流を行なう。 ・米国派遣事業の継続実施。	イ・授業におけるアクティブラーニング率の増加〔H28:33.6%〕 ウ・改革プロジェクトの立ち上げ。(年5回以上の会合) ・英語専門コースの授業アンケート「授業満足度」3.2以上〔H28:3.2〕 エ・週末課題等の提出率9割以上〔H28:9割達成〕 オ・年間の英検受験者・合格率の増加。〔H28:受験者増352名〕 カ・教育旅行1校受入れ・米国派遣10名以上参加〔H28:10名〕	
	(2) 高大接続改革への対応準備 ア 「確かな学力」育成と評価の研究	(2) ア・「大学入試改革に関わる授業改革プロジェクトチーム」を中心とした「確かな学力」の育成方針・方法と評価方法の研究と研修	(2) ア・プロジェクトチームによる「確かな学力」育成と評価に関する研修年2回行う。	

<p>2 生徒の自信を育む「生徒指導」の展開</p>	<p>(1) 規範意識の醸成 ア 遅刻と服装指導、授業規律の徹底</p> <p>イ 人権教育の推進</p> <p>(2) 教育相談・支援教育・規律指導が三位一体となった生徒指導 ア 教育相談の充実と関係機関連携</p> <p>(3) あいさつの励行 ア あいさつ運動の展開</p>	<p>(1) ア・遅刻指導・服装指導の継続実施。 ・適切な授業規律指導により落ち着いた学習の場を維持する。</p> <p>イ・特別活動等で人権尊重意識醸成の取組みを行う。</p> <p>(2) ア・教育相談・支援教育の観点を加味した適切な規律指導により生徒の規範意識を醸成する。 ・教育相談・支援教育の充実を図り、年間を通じて個別ケース検討を行ない、個に応じた合理的配慮や支援を行なう。 ・必要に応じて中学校・福祉・司法・行政などの関係機関の協力を得る。 ・教育相談・支援教育に関する事例検討等も含めた研修を実施し理解と力量を高める。</p> <p>(3) ア・「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行なう。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻数 900 件未満の維持 [H28:648 件(1/20)] ・自己診断(生徒)の「落ち着いた学習環境」への肯定率 70% [H28:69%]</p> <p>イ・人権に関する講演の開催 (1回)</p> <p>(2) ア・自己診断(生徒)での規範意識の肯定率 95% [H28:93.6%] ・教育相談・支援教育に関するケース検討 (20 回以上) ・関係機関連携を必要に応じた回数確実に行う。(昨年延べ 5 回) ・教育相談・支援教育に関する研修実施 (1 回) ・自己診断での教育相談の肯定率上昇(5 ポイント上昇) [H28:11.3 ポイント増]</p> <p>(3) ア・自己診断の「あいさつをしている」80%以上 [H28:77.4%] ・早朝のあいさつ運動実施 年 30 日以上</p>	
<p>3 「生きる力」を育成する学校行事・部活動の充実と地域連携</p>	<p>(1) 行事や部活動による主体性・協働性と愛校心の育成 ア 生徒主体の行事運営 イ 生徒主体の部活動運営</p> <p>ウ 中学生体験入部や交流の推進</p> <p>(2) 地域行事等への参加と広報活動 ア 地域行事等への参加 イ 生徒・教職員一体の広報活動</p> <p>ウ 学校説明会と中学校訪問</p>	<p>(1) ア・生徒が主体となるよう学校事の企画・運営を工夫し、生徒の自信と自己有用感を育む。 イ・部活動での生徒の主体的活動を支え、社会性やリーダーシップ、組織運営力など「生きる力」を育成する。</p> <p>ウ・中学生対象の「部活動体験会」や合同練習等の交流を推進する。</p> <p>(2) ア・地域の行事や近隣の企業等のイベント等に積極的に参加し「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。 イ・生徒と教職員による中学校・中学生への広報活動。 ・英語専門コースの生徒による、学校説明会や地域の小中学校を訪問してのプレゼン等により学校の魅力を伝え、生徒の自尊感情や自己有用感を育む。</p> <p>ウ・独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」となる。</p>	<p>(1) ア・イ ・自己診断(生徒)の学校行事及び部活動への満足度 90%以上 [H28:88.9%] ・1 年生の入部率 70% [H28:68%]</p> <p>ウ・「部活動体験会」などを 1, 2 学期で 5 回以上実施 [H28:17 回] ・部活動交流に参加する中学生 500 名以上 [H28:580 人]</p> <p>(2) ア・地域の行事等への参加 (3 回以上) [H28:7 回] イ・中学校向け広報紙の発行と配布 (6 回以上) [H28:6 回] ・地域の学校での生徒によるプレゼンや広報を積極的に実施。</p> <p>ウ・中学校訪問 60 校 (80 回) [H28:60 校]</p>	